

# ■小中学校適正配置基本計画第二段階に係る説明会(第2回)開催結果

## ◇説明会開催状況

開催日時	対象	出席者数(名)	会場
平成30年5月15日(火) 18:30～	横林小学校 保護者	6	横林小学校
平成30年5月16日(水) 18:30～	関谷小学校 保護者	9	関谷小学校
平成30年5月17日(木) 18:30～	大貫小学校 保護者	13	大貫小学校
平成30年5月21日(月) 18:30～	箒根中学校 保護者	2	ハロープラザ
平成30年5月22日(火) 18:30～	横林小学校区 地域住民	19	横林小学校
平成30年5月23日(水) 18:30～	大貫小学校区 地域住民	6	大貫小学校
平成30年5月28日(月) 18:30～	関谷小学校区 地域住民	12	ハロープラザ
平成30年5月31日(木) 18:30～	就学前児童 保護者	9	ハロープラザ
平成30年6月 3日(日) 10:00～	自由参加	4	ハロープラザ
計	全9回	80	

## ◇質疑概要

※区分・・・『保護者』=各小中学校の保護者

『就学前』=就学前児童の保護者

『地域』=各小学校区の地域住民

『自由参加』=6/3(日)開催の説明会出席者(他の日程に出席できなかった方中心)

## ○計画・方向性(案)関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	保護者	義務教育学校は内容としてはすばらしいと思うが、まずは統廃合の話を整理しないことには何を聞いても頭に入ってこないし、地域の理解も得られないのではないかと。また、新しい学校が、塩原小中学校のような地域の学校となるのはハードルが高いのではないかと。	前回お示しした、適正配置基本計画に沿った方向性(案)については、現時点では変わりはありません。ただし、箒根中学校の将来も見据えて考えたときに、複式学級が編成されている現状は何らかの対処が必要と考えたところが大きく、その対応の一つとして、単なる統廃合ではなく、より高い教育的効果が期待できる義務教育学校をつくり上げるという方向性(案)を提案したところです。前回、唐突に義務教育学校を提案したことで混乱を招いた点もあり、これを反省し、今回、より詳しく御説明したところです。
2	地域	塩原小中学校は元々狭い地域ゆえに成功した部分もあるのではないかと。	そうした要因も十分考えられます。また、①小学校の統合→②小中学校の併設→③小中一貫校の設立→④義務教育学校の設立、というようなステップを踏んできたことも要因と考えます。
3	保護者	義務教育学校の設立は、せめて塩原小中の9年後の結果が見えてからでもいいのではないかと。また、旧塩原町の区域は全て義務教育学校になってしまう。こうした状況がいいものかどうか分からない。	適正配置基本計画策定時から状況が大きく変わり、単なる人数で統廃合ありきという考えに疑問も出てきました。一方で、複式学級が編成されている現状は何らかの対処が必要と考えたことから、単なる統廃合ではなく、より高い教育的効果が期待できる義務教育学校を提案したところです。なお、現在、県内複数の地域で義務教育学校設立に向けた動きがあるようです。
4	保護者	新たに義務教育学校にするのは、先生方の育成という意味合いもあるのか。	そういう面は考えていません。小中学校それぞれの教師たちが9年間の学びを充実したものにしていく仕組みであることから、あくまで児童生徒を第一に考えたものです。

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
5	保護者	<p>質疑概要中「御意見として承ります」とあるが、回答としては逃げとを感じる。複式学級を解消するなら児童生徒を増やす方法を考えればよく、学区再編をすべきである。あくまで学区再編をしないのなら、しないと結論付けるまでに、どこでどういう検討をしてきたのか、明確にしていきたい。</p> <p>また、改めて学区再編を本気で検討していただきたい。</p>	<p>学区再編の可能性については適正配置基本計画策定後から随時検討してきた中で、その効果と影響について次のように考えたところです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○過小規模校における児童生徒数増と複式学級の解消が図れる</li> <li>△環境の変化に対する児童生徒への配慮が必要</li> <li>△通学距離延伸に伴う児童生徒や保護者への配慮が必要</li> <li>▲学区とほぼ一致した各地区コミュニティ圏が分断</li> <li>▲（学校移転を伴う場合）適地確保が困難</li> </ul> <p>上記の懸念される点を解消するには相当な時間を要するほか、各地区の枠組み再編を伴う可能性があるなど、学区や学校の問題に収まらないものであると考えています。</p> <p>一方で、これまで小規模特認校制度を活用した児童数の確保等も実施してきましたが、その後の児童数の推移や複式学級の状況を鑑み、早急な対応が求められると判断したことから、今回の方向性（案）を提案させていただいたところです。</p>
6	保護者	<p>西那須野地区の学区を再編し、各小学校の児童数を確保するといった取組や、塩原小中の児童生徒も増えていない状況から、将来、塩原も含めて統合するといった取組も検討してもいいのではないかと。</p>	<p>前回の説明会で、箒根地区を一つとして捉えることに無理があるという意見を伺いました。今回提案した義務教育学校は、あくまで児童生徒を第一に考えた中で、小規模校の良さを持ちつつ、高い教育的効果が見込まれるものであることから、まずは箒根中学校区の子どもたちや皆さんに実感していただき、さらに学区外からも人を集められればと考えています。</p>
7	保護者	<p>学区再編の検討経過が見えない限り、平行線のままである。また、箒根地区が一つのコミュニティなのか、さらには、15年～20年後にまた今回のような話になってしまうのではないかとといった疑問や心配がある。</p>	<p>『魅力ある学校づくり』については御意見のとおりだと考えますが、一方で、複式学級であることの教育上の課題等もあります。</p> <p>今回示した方向性（案）は、単なる統廃合で複式学級を解消すればよいというのではなく、さらに教育的効果を高めることに繋がるものだと考えています。</p> <p>なお、指定校変更制度の条件に合致すれば、学区外の他校に通うことは可能です。</p>
8	保護者	<p>学校の魅力化について、例えば先生方が変われば中身も変わるのではないかと。わざわざ遠くの学校に行かなくても、現在のまま取り組めるものもあるのではないかと。距離が離れていると、地域密着でなくなる。箒根地区全体を一つの地域とするのがどうなのかと思う。</p> <p>説明が義務教育学校ありきと感ずるので、例えば他の小学校に通える可能性も含めて検討してほしい。</p>	<p>おっしゃるとおり、私立の中高一貫校に進学させたい保護者、進学したい子どもが増えています。特に、JR駅周辺の小学校では、全員同じ中学に上がるのではなく、一部の児童が電車で宇都宮などの中学に通う状況があります。そうした状況もあり、皆が義務教育学校を選択してくれるわけではないと思いますが、より良い学習環境を提供し、多くの方に選択してもらえようようにしていきたいと考えています。</p>
9	地域	<p>説明にあった学習指導要領の改訂等に対する取組は、義務教育学校でなくてもできるのではないかと。中高一貫校や宇都宮市の私立中学など多くの選択肢がある中、箒根地区の義務教育学校に果たして人が集まるのか。</p>	<p>計画では「適正規模」としてはありますが、説明のとおり適正規模にこだわってはおられません。また、小規模校だけでなく、大規模校の問題も考えなくてはなりません。何より複式学級における教育的な課題等を考えれば、早急な何らかの対処が必要だと考えたところです。</p>
10	地域	<p>中学校の適正規模は達成できないと思うが、それでも関谷に義務教育学校をつくるのか。</p>	<p>決定ではなく、教育委員会の考えを方向性（案）として提案させていただいたところです。今回は、第1回説明会で義務教育学校の内容がよくわからないという声が多かったことから、より詳しく説明させていただきました。</p> <p>現時点では、皆さまからできるだけ多くの意見をいただきたいと思っています。</p>
11	保護者	<p>小中一貫校となるのは決定なのか。</p>	<p>中高一貫という考えはなかったのか。</p>
12	保護者	<p>中高一貫という考えはなかったのか。</p>	<p>中学校は市町村が、高校は県が運営しています。中高一貫教育は、受験・学力に特化した内容が多い傾向にありますが、今後大学入試が大きく変わり、これまでのような知識の詰め込みだけでは対応できなくなります。特に、「考える力」やより良い解決策を「選ぶ力」が求められるようになります。</p> <p>小中一貫教育では学力だけでなく「考える力」や「選ぶ力」を養うための独自カリキュラムが組めるほか、地域に密着し、地域の知恵なども学ばせたいと考えています。また、施設一体型とすることで、時間や距離的な制約を受けず、より効果的効率的な小中一貫教育が実現できます。</p>

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
13	地域	小規模だから義務教育学校になってしまうのか。	人数で決まるものではありません。東京都の例では、1000人規模の義務教育学校もあります。
14	地域	高林地区など他の地域も人数次第では義務教育学校となるのか。	現在、他地区では考えていません。今回の方向性（案）は、あくまで複式学級が編成されている状況への対応の一つとして、高い教育的効果が見込まれる義務教育学校を提案させていただいたところです。 また、部活動は人数による影響が出やすく、さらなる児童生徒の減少により部活動が減ると、部活動を理由とした指定校変更（児童生徒の流出）が増えることも懸念されます。そのため、義務教育学校で魅力を高め、将来的には学区外から通学する児童生徒を増やしていきたいと考えています。
15	地域	小規模校の区域から他地域へは行かないようにするという事か。	あくまで学区は現在の箒根中学校校区と同様となりますが、指定校変更により他の小中学校に通学することは可能です。 それでも義務教育学校に通ってもらえるよう、スクールバスの対応なども含め、魅力を増やしていきたいと考えます。
16	保護者	例えば、この案が各地域に受け入れられないとした場合の腹案などはあるのか。	現在は皆さんの考えを伺っている状況で、特に腹案などはありません。まずは、義務教育学校などについての理解を深めていただくことが先決であると考えています。
17	保護者	関谷断層に対する考え方で、いつ起きかわからないものに対する備えが必要であることや、他県で原発を断層地帯に建設することが問題になっていることなどから、そうした地域に新たな学校をつくることに対する考えを聞きたい。	学校は災害時の避難所となることもあり、大規模災害に耐えうる施設とすることは当然であるほか、他県の例ではこうした状況を逆手に取り、防災意識を高めるための授業に取り組んでいる学校もあります。 子どもたちへの防災教育も含め、少しでも皆さまに安心していただけるよう十分な備えをしていきたいと考えています。
18	保護者	東日本大震災では『想定を超えた被害』が続出したことから、『この程度で安心だ』とするのではなく、最善を尽くしていただきたい。	法の基準を満たす施設であることは当然であるほか、避難所に指定されていることから、施設の設計段階から最良の施設となるよう最善を尽くします。
19	保護者	複式学級は何かしたいと思っている。小規模校の良さはたくさんあるが、何をするにしても親が全てやらなくてはならない。PTA役員もほぼ全員でローテーションしなければならない。指定校変更で他校（大規模校）に行く理由として、距離や部活などもあるが、PTA役員になりにくいという面もある。	保護者の皆さまのそうした状況について、理解しました。 なお、中学校の規模はこれまで同様となりますが、義務教育学校（小中一貫校）となることで、そうした負担は一定程度は軽減されるものと思われれます。
20	地域	義務教育学校は新たな取組であるので、先生の教育も必要であると感じる。	まさに御指摘のとおりです。義務教育学校では、小中学校それぞれの教師による相互乗り入れ授業などが行われますが、より高い教育的効果を実現するためには、教師のスキルアップも欠かせない要素であると考えます。
21	地域	統廃合の話は前々からわかっていたが、いまだに児童数が減り続けており、仕方ないと考えている。	小規模特認校制度により、他校への流出を抑えつつ、学区外から通える環境づくりをしてきましたが、全市的（全国的）な児童生徒の減少に歯止めがかけられない状況であります。
22	地域	何とか皆で関谷の義務教育学校に通えるようにするのがいいと思う。中学校が分かれてしまっは、成人式の時など複雑な気持ちである。	スクールバスにより遠距離通学の負担を軽減するなど、地域の児童生徒が皆で同じ学校に通えるよう対応していきます。
23	地域	他の地域からも児童生徒を受け入れるつもりか。是非、そうしてもらえれば、部活動の問題なども解消につながるかもしれない。	教育委員会としても、そのように考えています。 また、部活動問題解消などのためにも、他地域からの受入れと併せて、地域の児童生徒が皆で新しい学校に通える環境をつくることが重要だと考えています。

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
24	地域	説明にあった、市が考えるメリットは現在の小学校で全て達成されている。また、卒業生（中高生）も頻繁に学校を訪れ、年代間の交流もできている。複式学級に関する問題は、教員のスキルを高めれば補える。「学校を残す」という選択肢も引き続き検討してほしい。	例えば、塩原小中では、学習面でかなり効果が上がったという実感を持っている保護者もいるようです。一方で、人数が少ないことに対する不安など、学習面以外の不安も相当程度あるようです。これからの教育には、多様な他者との関わりが重要と考えることから、集団生活により社会性を身に付けられる環境づくりが急務だと考えています。一定規模が確保でき、かつ、小規模校の良さも兼ね備えた環境として義務教育学校を提案したところです。また、体育や音楽の授業では、一人では成しえない活動もあります。そうした可能性を潰してしまう状況は、早期に解消しなければならないと考えています。
25	地域	球技や合奏のために人数を確保する必要はない。その時は、他校から児童を集めればいい。	それも方法の一つと考えますが、限られたカリキュラムの中で時間等の制約もあり、日常的に実施するのは難しいかもしれません。
26	地域	大人数（大規模校）でも結局複数のグループに分かれてしまい、大規模校の弊害とも言える状況もある。本校では、運動会時、子どものいない家庭や他校に通う子どもたちも参加するなど、地域一帯で活動できている。	地域ぐるみで学校活動に参加し、盛り上げていただいていることについて、大変ありがたく思います。新しい学校がすぐに大規模校になる状況ではありませんが、本校（小規模校）の良さを受け継いで、より良い学校をつくっていききたいと思えます。
27	地域	今回の方向性（案）は国の政策によるものか。国は義務教育学校を推進していくのか。	2020年に学習指導要領の大幅な改訂が予定されています。その中で、国は幼小中高大の一貫教育を求めています。義務教育を担う市として小中一貫教育を進める上で、施設一体型は特に有効であると考えています。なお、中高一貫も今や一般的ですが、高校は県立が主となるので、市町村では取り組みにくい部分もあります。
28	地域	平成34年4月開校は決定か。	スケジュールに関しては、『あくまで現時点で計画が決定した場合』と仮定して説明したところです。
29	保護者	計画決定に当たり、『議会で決定して』というのは何も問題がなかったらということだと思ふ。現在、他の地域では計画反対の声もあると聞いたが如何か。	現在、各地区の保護者や地域の皆さまから様々な意見をいただいているところです。スケジュールに関しては、『あくまで現時点で計画が決定した場合』と仮定して説明したところです。
30	自由参加	「合意を得て進める」とあるが、具体的にどのように確認するのか。	多数決やアンケートということではなく、それぞれの説明会でいただいた意見などから総合的に判断したいと考えています。現在はまだ方向性（案）ですが、次回は計画素案として提示したいと考えています。そこでも皆さまの意見を伺いながら、状況判断していきたいと考えます。当然、地域の理解が得られていない状況では、議会に計画を上程することはできませんし、議決もいただけないと考えます。小まめに説明会を重ねながら、皆さまの意向を確認するといった方法で『合意』の判断としたいと考えます。

## ○義務教育学校(小中一貫校)関係／学校の魅力化関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	保護者	「受験が学習の動機づけにならない」との説明があったが、逆に9年間の後期を受験対策に特化するようなカリキュラムも組めるのか。保護者の視点で言えば、行きたい高校に進学できるのも大きな魅力の一つだと思う。	新学習指導要領によれば、これまでのような詰込み教育的なカリキュラムはできないと考えます。今後、入試制度が大きく変わり、知識の量ではなく、どういう道筋で物事を解決できるかという能力が求められます。今や高校も大学も定員に満たず、全入時代になっている中、それぞれの学校が特色を出し、また、企業もそういう人材を求めています。社会が必要とする能力を身に付けさせるための一つの手法が、義務教育学校であると考えます。
2	保護者	学習指導要領が変わるといふことか。	その通りです。明治に始まった教育が大きく変わろうとしており、ある意味、明治維新と同じくらいのカルチャーショックを受けることになるかもしれません。今の大人たちが解決できない多種多様な社会問題に解決の道筋をつけられる能力を身に付けさせる必要があります。

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
3	保護者	独自のカリキュラムについて、開校後でも変更や追加は可能か。例えば、特色として始めた取組で思うような効果が出ないと感じた場合、後から違う取組に変えるといったことは可能か。	可能です。文部科学省に教育課程の特例について申請し、認められれば途中からでも新たな取組を行うことができます。当然、開校までに特色ある取組を決定しますが、開校後も皆さまと引き続き協議しながら、より良い取組を行えるようにしていきます。
4	保護者	義務教育学校の教育方針（独自カリキュラム等）に保護者の意見も取り入れてもらえるのか。	可能です。塩原小中でも、実際に保護者や地域の皆さまの考えも取り入れながら学校づくりを行いました。
5	自由参加	自由なカリキュラムが組めるとのことだが、教科書は他校と同じものを使うのか。	義務教育学校も含め、市内の小学校、中学校はそれぞれ同一の教科書を用います。途中市内での転校等があっても支障はないと考えます。ただし、義務教育学校では前倒し授業も可能となるので、その場合は何らかの補助教材を用いることとなります。
6	保護者	9年間の教育もいいと思うが、小学6年生も年長者として大きく成長できる時期でもあると考え、小中は分けた方がいいと思う。	塩原小中の例では、9年間で3期（1～4年をⅠ期、5～7年をⅡ期、8～9年をⅢ期）に分けていますが、それぞれの期の年長者は、リーダーとしての自覚を持ち、段階ごとに成長の兆しが見て取れます。
7	保護者	一定程度の統廃合は仕方ない。かつて魅力・特色を考えたときに、他校の成功事例を見ても、ほとんど本校で取り組んでいるものであったことから、これからの義務教育学校の魅力づくりには期待している。保護者や地域住民の意見を積極的に取り入れてほしい。また、地域の取組に対する補助なども検討してほしい。	準備委員会などで皆さまからの意見を伺い、義務教育学校の取組に活かしていきます。また、地域の取組については、柔軟に対応させていただきます。
8	地域	中高一貫校というのは成長段階などから何となく理解できるが、小中一貫というのは違和感があり、理解が難しい。紹介DVDだけでは義務教育学校の日常が見えにくい。	例えば、塩原小中における教育的効果は、下記の例が挙げられます。 ○作文指導により、文章力が向上（新聞の読者登壇に全員が採用） ○中学生が下級生（小学生）とともに学校生活を送ることで、確実に面倒見がよくなる傾向がある ○その上級生を間近で見ることで、小学生が中学生を憧れの眼差しで見ようになり、良いお手本となる ○小中一貫とすることで、いわゆる中一ギャップをなくす、若しくは緩やかにすることができ、不登校の発生を抑制できる ○小学生が中学校の教科担任による専門的な授業を受けられる上、中学生が小学校教師による基礎的サポートを受けられる なお、中高一貫の場合、高校入試の心配も少なく、安心して勉強しなくなるというケースもあるようで、一長一短があるようです。本市が進める小中一貫教育では「人づくり」に力を入れ、人とのコミュニケーションを大事にし、自分の意見をしっかり伝えられる子を育てていきます。
9	地域	9年間一緒にいることで、人間関係が固定化してしまうのではないか。	そうした点は、義務教育学校のデメリットとして挙げられています。それでも、9学年分の同級生や先輩後輩、小中それぞれの教師たちといった、通常の学校よりも多くの年代、多くの大人たちとの関わりの中で生活するメリットも大きいと考えます。
10	就学前	自らが大規模校を経験したことから、少人数の学校が良いと思い、この地域に引っ越してきた。人数が増えることで、先生方によく見てもらえないのではないかと心配がある。	塩原小中の場合、教員定数が通常の学校よりも多く、児童生徒3～4人に1人先生がいる計算になります。通常の学校と比べれば、より多くの大人の目が向けられることになります。また、今回の案ではすぐに大規模校となるわけではないので、懸念されるような状況ではないと考えます。
11	就学前	対応する先生方の負担はないのか。	塩原小中の場合、相互乗り入れがあったとしても、授業時間数はそれほど増えていません（概ね週20時間弱）。一方、大規模校などでは週29時間のうち、25時間授業を受け持つ場合もあります。また、規模が小さすぎると、中学校の教科担任を全教科分揃えられなくなるといった影響も出てきます。なお、中一ギャップに対しては、小学校から見てきた先生が同じ校内にいるので、生徒の変化にも気づきやすく、中学校の先生との連携も取りやすいといった面が期待できます。

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
12	地域	義務教育学校への理解のため、塩原小中の卒業生の様子が知りたい。	個人ごとに追跡調査等を実施してはおりませんが、義務教育学校出身ということで特段苦慮しているといった話は聞いておりません。なお、小規模校故に大人数の高校生活に馴染むまでに時間がかかるといった保護者の声がありました。
13	就学前	義務教育学校のデメリットについて聞きたい。	塩原小中では、人間関係の固定化のほか、低学年の子が中学生の悪い面をまねてしまうといった声があります。また、学年間のギャップを埋める一方で、けじめやメリハリがなくなることに対し違和感があるという保護者の意見もあります。

### ○小規模特認校関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	保護者	箒根中は小規模特認校ではないのか。	現在は特認校となっていません。
2	保護者	地域の方が、本校の現状（児童数等）について理解されていない場合もある（未だに100人くらいいると知っている場合も）。また、以前の校長先生方や地域の理解が得られず、PTAとして、せつかくの小規模特認校制度を有効に活かすきれなかった。	方向性（案）では学区が広範囲となりますが、御心配のような状況にならないよう、準備委員会や開校後の学校運営などに地域の皆さまにも積極的に参加していただけるような取組を行ってまいります。また、義務教育学校も小規模特認校となる見込みであることから、そうした経験を教訓としてまいります。

### ○特別支援学級関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	地域	特別支援学級は9年間の中でどうなるのか？	入学時から9年間区別し続けるということではなく、時間によっては通常学級で授業を受けます。毎年度、保護者と相談しながら今後の対応を決めていきます。
2	就学前	学習支援が必要な場合、通常のカリキュラムで対応するのか。また、対応する先生の配置などについて聞きたい。	児童生徒や保護者とも話し合いながら、また、必要に応じて市採用教師を配置するなど個別に対応することになります。カリキュラムについても、通常どおりに受けられるのか、個別指導が必要かは個別に判断します。その点は、通常の学校と変わりません。
3	自由参加	障害児への対応はどのように考えているのか。	現在、関谷小学校に特別支援学級がありますが、義務教育学校にも残ります。ただし、現在弱視クラスが市内にはないため、人数などに応じて、検討の余地はあると考えます。

### ○児童生徒関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	保護者	塩原小中の成果として、英語の成績が伸びているということだが、5教科全体で見たときはどうか。英語に集中している分、他教科の時間が削られているのではないのか。	他教科の時間を削っているわけではなく、総合的な学習の時間とタイアップしたり、独自の取組ができる時間を活用しています。なお、これらが高校入試にどの程度影響したかは一概には言えませんが、子どもたちの書く力は確実に成果が出ていると言えます。
2	保護者	同じ学校でありながら、7年生になると制服を着るようになる。その辺の気持ちの切り替えができるのか。保護者としては違和感がある。	塩原小中の保護者からは、特にそういう御意見は聞いていません。なお、6年生修了時には修了式を実施しているほか、7年生はⅡ期の年長者であり、リーダーとしての意識・自覚が芽生える傾向にあります。それと制服が相まって、気持ちの切り替えに繋がるのかもしれない。
3	保護者	区切り区切りで子どもの成長を感じられるような取組もお願いしたい。	卒業式ではありませんが、6年生修了時に修了式などを実施することもできます。
4	就学前	塩原小中では小中それぞれで時間割が異なるが、子どもたちはどのように生活しているのか。	ノーチャイムとしているので、自ら時計を見て動いています。通常は小学校45分・中学校50分授業ですが、5年生（Ⅱ期の始まり）から3・4時間目を50分授業としています。この時間（1日10分、1週間で50分）を利用して、復習ドリルや小中学校の先生同士によるチームティーチング（TT）による個別指導に取り組んでいます。これは学校独自の取組です。また、子どもたちは、授業が5分伸びたことを余り感じていないようです。

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
5	地域	子どもが小中学生の頃はゆとり教育であり、チャイムが鳴らなかったため、時間的な感覚が養われていないように感じるがあった。	塩原小中の例では、ノーチャイムとしているが、子どもたちは自ら時計を見て動いています。義務教育学校でもそのようにできると考えています。
6	地域	中1ギャップが解消できるのは理解したが、高1ギャップはないのか。	確かに、9年間慣れ親しんだ学校を離れ、初めて慣れない環境に飛び込むため、初めの頃はとまどいがあると思います。 なお、学習面については、他の中学校よりも多くの時間を様々な取組に費やしていくことから、授業についていけないといった状況はあまりないのではないかと考えます。
7	就学前	施設面について、なるべく低学年に合わせるといった説明もあったが、そうした点も含めて中学2年生や3年生におけるデメリットはあるか。	今後、大学や高校入試が大きく変わります。学習指導要領が変わり、自分の考えを論理的に相手に伝えられる能力が求められる。義務教育学校では、そうした点のほか、数学やICTなどに独自に重点的に取り組むこともできることから、学習面でのデメリットはないと考えます。
8	就学前	箒根地区の義務教育学校に入学した場合、矢板東高校などの中学校には入れなくなるのではないのか。また、6年生で卒業式もないまま転校となる場合もあるということか。	他の中学校や中高一貫校の中等部への入学も可能です。前期課程（小学校）修了時、他の中学校を受験することもできますし、部活動などを理由とした指定校変更手続により他の中学校へ進学することもできます。学校行事としての卒業式はないものの、6年生終了時に修了式を行うので、それが一つの区切りになると考えます。
9	地域	保護者の考え方を第一に考えていただく中で、皆で同じ学校に通ってもらえればと思う。そうした中で、受け入れる側の地域とそこに入る側の地域をきちんと考えてほしい。	教育委員会としても、箒根地域の児童生徒が皆同じ学校に通ってほしいと願っています。 また、今回提案した義務教育学校は、あくまで新設校であるため、地域による考え方や意見に偏りが出ないように、準備委員会などでの配慮に努めます。

## ○校舎・設備関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	保護者	箒根中グラウンドを活用するといった説明があったが、関谷小の敷地から何で移動するのか。	日中空いたスクールバスで移動したり、スクールバスの帰りの便に合わせてたりといった方法も考えています。
2	保護者	プールや体育館の改修の話があったが、使えるものはしっかり使っていく方がいいと思う。	可能な限りそうしたいと考えますが、義務教育学校になると現在の関谷小学校体育館では全校児童生徒が収まりきらないため、改修は必要と考えています。
3	地域	箒根中は校舎が古いので、体育館などが新しくなるのは良い。その際、地域への開放や武道等に対応したものにしてほしい。（昔、ハロープラザ建設時に武道への対応が約束されていたが、結果的に物足りないものだった。	武道等については、中学校の授業でも取り組むことから、一定程度そうした活動ができる施設設備は必要だと考えます。
4	地域	塩原地区にはナイター施設がないので、そうした点も考慮してもらえると良い。黒磯地区や西那須野地区には様々な施設ができていますが、塩原地区には何もできない。	現在の計画では照明設備の設置は考えておりません。 なお、塩原・箒根地区のまちづくりについて、教育委員会だけで取り組めるものには限界がありますが、こうした御意見について庁内他部局にも継続して働きかけてまいります。
5	地域	現在各学校に空調・エアコンを整備しているが、義務教育学校にも設置するのか。また、電気を一斉に使用するとその後の料金に影響する場合もあるが、使用の制限等も考えているのか。	現在、市内全小中学校の普通教室へのエアコン設置工事を進めており、平成31年度に全校設置完了予定です。今後建築予定の義務教育学校後期課程校舎の普通教室へも設置を予定しています。 また、御指摘のとおり電気を一斉に使い始めると、今後の電気料金が莫大となる契約であるため、エアコン稼働に当たっては、教室ごとに使い始めの時間帯をずらすような使用マニュアルを策定しています。

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
6	地域	地下水を利用した蓄熱式暖房などは利用しないのか。	暖房はF F式暖房機を基本としています。

## ○通学手段・スクールバス関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	保護者	現在は停留所まで保護者同伴とされているが、中学生もそうなるのか。例えば、停留所に近所の中学生がいて、低学年の子だけで並ばせられるなら、保護者の負担軽減にもなると思う。	安全面や利便性など、どこに重きを置くかにもよるので、今後保護者の皆さまや学校を交えて協議させていただくほか、準備委員会での審議を経て決定してきます。
2	就学前	スクールバスについて、帰る時間が学年で異なるが、帰りの便に合わない場合は、保護者が迎えに行くのか。	現在スクールバスを運行している学校では、朝は1便、帰りは部活動などを考慮し、2～3便運行しています。そのため、中学校の部活動などは、終了時間を整えているというのが現状です。また、箒根中を第二グラウンドとして部活動などに利用する考えもあることから、箒根中から直接帰りのバスに乗ることも可能と考えます。
3	保護者	部活動終了後にも帰りのバスが出るのか。	それに間に合わない場合や学童クラブを利用する場合は、原則保護者のお迎えが必要です。なお、学童クラブはあくまで学校が終了した後の対応ですので、スクールバスでの対応は現状では難しいと考えます。
4	保護者	関谷地区に通う場合、予約ワゴンバスなどの使い勝手が悪く、結局親の送迎が必要になってしまう。	現在のところ、日々の通学に当たってはスクールバスの対応を考えています。なお、今年秋ごろのダイヤ改正に伴い、箒根中学生の利便性を向上するような対応がなされるようですので、是非利用を検討していただきたいと思えます。
5	保護者	安全に送迎してもらえるのは、親として安心できるので良い。親の送迎とスクールバスを比較すれば、スクールバスの方がいいと思っている。箒根中は今でもあっていいと思っている。途中の道のりを見れば、高阿津地区も対応してほしい。	日々の通学に当たってはスクールバスの対応を考えています。通常は、小学生4 km以上、中学生6 km以上が対象ですが、一定程度弾力的な運行も可能と考えます。
6	地域	スクールバスを出してくれるという点は良かったと思う。大規模校からもスクールバスで通学できるようにすれば、部活動問題なども解消できるのではないのか。	将来的に学区外からの入学希望者が増えてくれば、そうした対応も考える必要があると思えます。
7	地域	スクールバスに地域の高齢者が乗れるような仕組みを要望したい。現在給付されているタクシー券では足りないのでは、通院などに利用できればありがたい。	他県では、一般の方の相乗りスクールバスを運行している例もあります。ただし、セキュリティ等の課題もあり、どういう形にするかは準備委員会で検討していきます。
8	自由参加	共働きのため、学童クラブの利用を考えている。スクールバスを利用した場合でも、学童クラブへは迎えに行くようか。また、夏休みなどの長期休暇中は毎日送り迎えをするようか。	学童クラブ担当部の考えでは、原則、送り迎えをお願いするとのことですが、そうした要望についても担当部に伝えてまいります。
9	保護者	スクールバスを義務教育学校開校前から運行できないか。	現時点では開校時からと考えていますが、要望として改めて検討したいと思えます。なお、早くても準備委員会の方針決定以降が望ましいと考えます。

## ○学校行事関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	保護者	説明にあった6年生時の宿泊訓練は、通常5年生で行うものを6年生で実施しているだけではないか。6年生時の修学旅行は残してほしい。	現時点ではまだ決定ではなく、準備委員会などで協議することになります。なお、塩原小中では、通常の5年生時の宿泊訓練とは別に、6年生時に東京方面で職業体験をするなど、あくまで学習の一環としての宿泊学習を実施しています。



No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
2	保 護 者	準備段階から交流事業を実施するとあるが、具体的にどのような事業を実施するのか。	具体的な事業の中身は準備委員会の中で皆さんと協議しながら一緒につくっていきます。他校の例では、児童と保護者合同のイベントで交流を図ったほか、そこに地域住民も交えて開催することも可能だと考えます。

### ○指定校関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	保 護 者	指定校変更制度が気軽にできる雰囲気があるので、もう少し厳格にする必要もあると感じる。	指定校変更をする場合、保護者の送り迎えが必須であったり、近所の同級生たちと違う学校に通うことなど諸々の影響を考慮し、各家庭で話し合っただけで決められていることと思います。それでもなお、指定校を変更される個別の事情を鑑みれば、更なる制限や制度廃止は難しいと考えます。
2	地 域	指定校変更した子どもたちもスクールバスで通えるよう要望したい。	前回（第1回）の説明会において、各地域や各家庭の事情等により、学区外の学校に通ってこられた歴史を理解しました。しかし、これまでもそうであったほか、上記のような御意見や他地区での現状を鑑みれば、指定校変更時のスクールバス対応は難しいと考えます。
3	地 域	指定校変更制度で許可手続を求めるのではなく、誰でもどこへでも通えるような制度も必要ではないか。	許可などではなく、要件に合うものかどうかを確認する制度です。また、指定校変更制度のほか、地域や通学距離にかかわらずどの地域からも小規模校に通える制度（小規模特認校制度）も用意しているところです。

### ○学童クラブ関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	自 由 参 加	義務教育学校となった後も、この地区の学童クラブは存続してほしい。	各地域の学童クラブについては、現時点では何も決まっていますが、そうした要望を担当部に伝えてまいります。
2	自 由 参 加	スクールバスはありがたいと思うが、（関谷方面への）学童の迎えが負担と感じる。	学童クラブ担当部の考えでは、原則、送り迎えをお願いするとのことですが、そうした要望についても担当部に伝えてまいります。

### ○跡地活用関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	地 域	金沢小跡地について、地域自ら清掃活動（草刈り等）をする場合、届出などの手続は必要か。	地域の皆さまの御協力に感謝申し上げます。届出というわけではありませんが、着手前に御相談いただければ、資材等支援できる部分もあります。

### ○その他要望／市教育委員会に対する御意見

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	保 護 者	この地区にも小規模特認校制度などで他地区から通学する児童がいる。地域学習に当たっては、その子どもたちも含め、各地区の伝統行事や特のお祭りなどに自由に参加できるような取組を、市としても考えてもらいたい。	他校の例では、少子化等で担い手不足に悩む伝統行事を存続させるため、地域の伝統行事を小学校の行事として、他地区の子どもたちも交えて実施している例もあります。当然、最初は地元の反対などもありましたが、結果として多くの子どもが参加し盛り上がっているところです。準備委員会等でそうした取組を参考に、働きかけをしていきたいと考えています。
2	保 護 者	義務教育学校の説明を聞いて、すばらしいし、塩原小中学校には合っていると思うが、限られた授業数の中で地域学習などに取り組むには、箒根地区は地域の範囲が広すぎる。また、金沢小統合後、地域との繋がりも少なくなってしまう。宇都野のお祭りに参加するなど、努力はしているが。	塩原は以前から幼稚園保育園などとも連携した活動に取り組んでおり、御意見のような状況が元々ありました。義務教育学校ではその地域に合った取組を柔軟に対応できます。現在各学校で取り組んでいる全てのことを継続するのは難しいかもしれませんが、各校の良い取組を持ち寄り、各地域との繋がりを継続していきたいと思っていますので、地域の皆さまにも是非より良い学校づくりに御協力をお願いします。

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
3	保護者	<p>箒根地区に不便を感じているためか、若い人が他地区に引っ越してしまうようでは、義務教育学校をつくっても人は集まらないのではないのか。通勤通学手段（公共交通機関）の充実や子育て世代への助成など、市として住みよくするための取組も必要だと思う。</p>	<p>学校だけでなく、住みやすい環境づくりが必要だという御意見のほか、保護者の視点では生活圏を大事にしている部分がある中で、なぜ関谷地区なのかという意見も多くあります。教育委員会だけに納まる課題ではありませんが、庁内各部局にもこうした声を届け、より良い方向へ進んでいけるよう継続して働きかけてまいります。</p>
4	保護者	<p>義務教育学校だけでは人は集まらない。もはや教育委員会だけでどうにかなる話ではない。本気で人を集める施策を考えないことには、児童生徒の減少も解決しないのではないのか。</p>	<p>教育委員会だけで取り組めるものには限界がありますが、教育委員会としてもそのように考えているところであり、庁内他部局にも継続して働きかけてまいります。</p>
5	地域	<p>今回も教育長が見えていないのが不満である。我々にとっては非常に重大な話であるので、大事な場面では是非出てきてほしい。</p>	<p>次回はある程度形にした計画を示したいと考えています。その際には、教育長にも出席願うつもりです。</p>
6	地域	<p>孫や子ども（保護者）のためになるような取組をお願いしたい。</p>	<p>特に保護者の皆さまが心配される通学距離が延びることに対しては、スクールバスによる対応で安全な通学を確保しようと考えています。また、より柔軟なカリキュラムにより学習面での特色も示し、皆に通ってもらえる学校にしたいと考えています。保護者の方の生活圏などを考えると、指定校変更による選択もいたしかたないと思うところですが、まずは児童生徒を第一とし、当然保護者や地域の皆さまにとっても少しでも有意義なものとなるよう尽力していきます。</p>
7	地域	<p>学校が無くなると地域が寂れてしまう。地域が学校と関われなくなるのが心配である。</p>	<p>現在、金沢・宇都野地区では学校跡地の使い方も含めて、地域独自の取組について協議している状況があります。そうした御心配は他地域でも出ており、教育委員会としても重要な課題であると感じています。学校までの距離は離れますが、皆さまのお子さんやお孫さんが通う義務教育学校を『地域の学校』と感じていただけるよう、より良い取組を行い考えてまいりますので、少しでも多く学校に足を運んでほしいと願っています。</p>
8	地域	<p>30年前からこうした話があったが、それまで何もしてこなかったのだから仕方ない。皆わかっていたことだと思う。</p>	
9	地域	<p>20年後、30年後を考えると心配である。学校が無くなると、地域拠点が無くなる。子どもが大人になった時に、地元に戻って来いと言えない。関谷地区に人が向かうには、相当の魅力がないといけない。市としても真剣に取り組んでいただきたい。</p>	